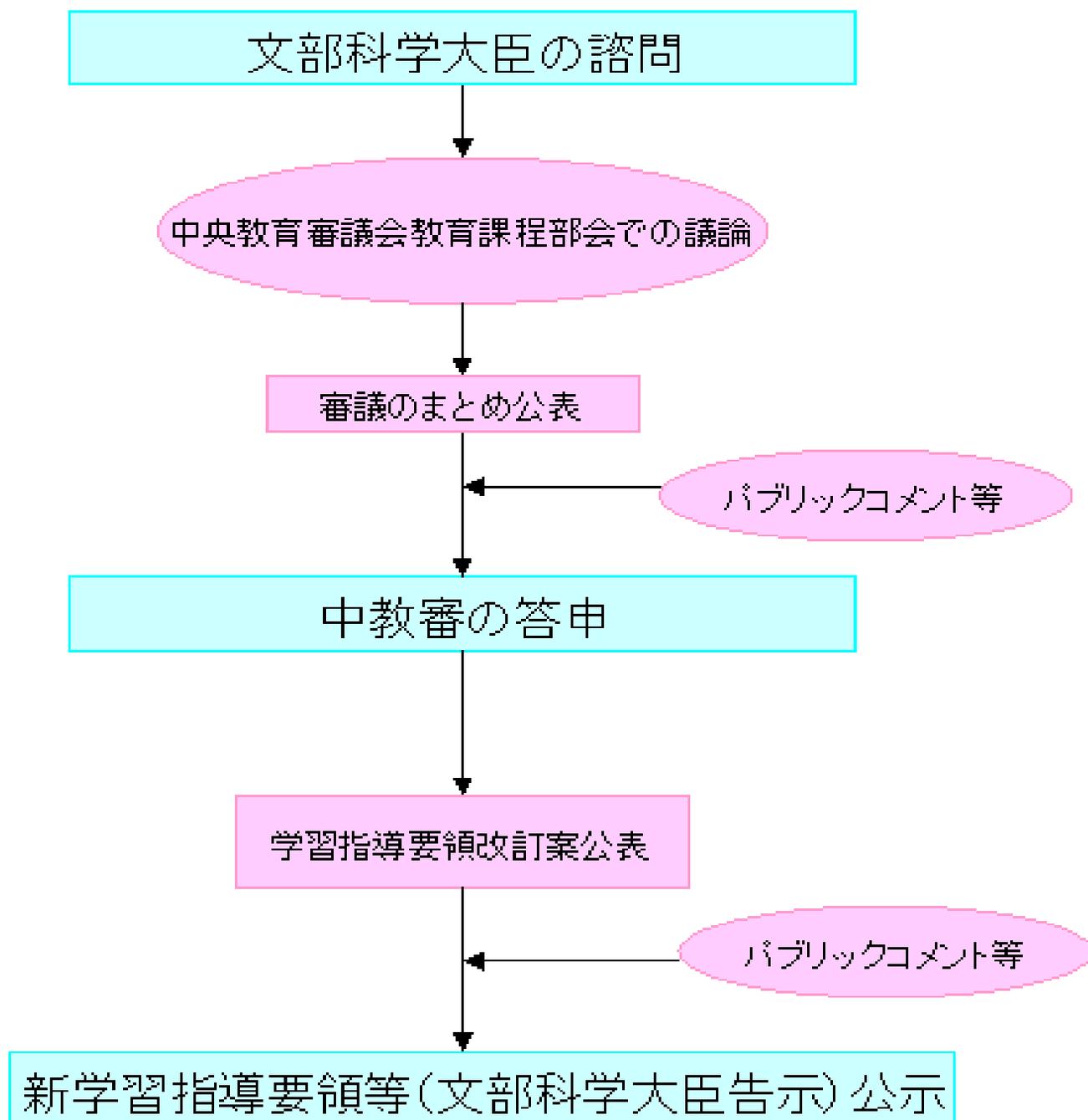


学習指導要領ができるまで



学習指導要領の変遷

昭和
33～35
(1958～1960)
年改訂

教育課程の基準としての性格の明確化
(道徳の時間の新設、基礎学力の充実、科学技術教育の向上等)
(系統的な学習を重視)

(実施)

小学校:昭和36年度、中学校:昭和37年度、高等学校:昭和38年度(学年進行)

昭和
43～45
(1968～1970)
年改訂

教育内容の一層の向上(「教育内容の現代化」)
(時代の進展に対応した教育内容の導入)
(算数における集合の導入等)

(実施)

小学校:昭和46年度、中学校:昭和47年度、高等学校:昭和48年度(学年進行)

昭和
52～53
(1977～1978)
年改訂

ゆとりある充実した学校生活の実現＝学習負担の適正化
(各教科等の目標・内容を中核的事項にしぼる)

(実施)

小学校:昭和55年度、中学校:昭和56年度、高等学校:昭和57年度(学年進行)

平成
元年
(1989)
改訂

社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成
(生活科の新設、道徳教育の充実)

(実施)

小学校:平成4年度、中学校:平成5年度、高等学校:平成6年度(学年進行)

平成
10～11
(1998～1999)
年改訂

基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの[生きる力]の育成
(教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の新設)

(実施)

小学校:平成14年度、中学校:平成14年度、高等学校:平成15年度(学年進行)

平成
20～21
(2008～2009)
年改訂

**「生きる力」の育成、基礎的・基本的な知識・技能の習得、
思考力・判断力・表現力等の育成のバランス**
(授業時数の増、指導内容の充実、小学校外国語活動の導入)

(実施) 小学校:平成23年度、中学校:平成24年度、高等学校:平成25年度(年次進行)

※小・中は平成21年度、高は平成22年度から先行実施

学習指導要領のねらいの一層の実現の観点から学習指導要領の一部改正(平成15年)